

# 福島県学校給食研究会 栄養士部会

第92号

平成30年2月1日  
福島県学校給食研究会  
栄養士部会  
発行責任者 赤津由紀子  
担当 県北方部

## 会 報

### 「食育のススメ」

4月に本校に赴任をし、縁がありまして、学校給食研究会安達支部に所属する事となりました。本校の「食育」に関する取り組みについて紹介させていただきます。

本校は地区にある「二本松市安達学校給食センター」から給食の提供を受けています。そこに勤務している栄養教諭武藤真紀先生に、1～5年生の「食に関する授業」で講師をしていただきました。各学年のねらいに合わせた、資料たっぷりの授業に、児童も興味深く学習していました。

6年生は、7月に自分たちが考えた献立が給食となる「ほんとの空献立」作成に取り組みました。「夏ばてしない」食事にポイントを置き、ペアで相談しながら5大栄養素が入っているかを確認し、献立を考えました。決定した献立は「ご飯、夏野菜サラダごまドレッシング和え、ピーマンの肉詰めフライ、もずくスープエビ団子入り、シャーベット」です。

9月には保護者を対象に、給食試食会を行いま

学校給食研究会安達支部長

二本松市立川崎小学校長 杉内 律子

した。児童と同じ給食を食べ、家庭でも「食」を話題にしてもらう事もねらっています。この時も、武藤先生に講話をお願いしました。

11月は5年生対象に、プログラミングを活用した「食育」の研究授業を行いました。

スクラッチというソフトを使い、論理的思考を働かせながら、「たまご焼き」を作る工程を考えることに、児童は意欲的に取り組みました。

食に関する正しい知識を身に付けることは、生きる力を身に付けることでもあります。これからでもできる限り「食育をススメ」て行きたいと思えます。



### 『和顔愛語』を心がけて

食に関する指導の授業の時、児童生徒の前に立った私は、どんな顔をしているのだろうか。後日、写真を見て、ハッとすることがあります。

ある日ラジオから、『和顔愛語(わがんあいご)』という言葉が耳に入ってきました。辞書で調べてみると、『「和顔」はやさしげな顔つきのこと。「愛語」は親愛の気持ちがかもった言葉の意。』と、書いてありました。この言葉がお経の中にあるということもわかりました。

また、テレビでは「お客様サービス」の電話対応者の仕事について放送されたものを見たことがあります。電話で対応するため相手の方に顔は見えませんが、電話の脇に「鏡」を置き、自分の顔の表情を見ながら対応していると、インタビュー

福島県学校給食研究会

栄養士部会 副部会長 櫻井 長子

に答えられていました。『鏡』を見ながら対応することで、やわらかな対応ができることでした。

このようなことを知ってからは、授業前には『鏡』を見て、『笑顔』になっているかどうかを確かめるようにしています。このように鏡を見らることで、授業前の緊張感や不安が少し和らげられるように感じています。

次の目標は、『笑顔』を意識しながら、『思いやりのある優しい言葉』で授業ができるようになることです。

そのためには、『和顔愛語』を身に付け、日頃から笑顔と思いやりのある優しい言葉で周りの人たちに接していくことを心がけたいと思えます。

## 「生徒たちの笑顔を見るために」

矢吹中学校は矢吹町の4つの小学校から集まった、町で一つの中学校です。今年度の生徒数465名、教職員を入れて、503名の給食を実施しています。

学校給食は平成9年に単独調理場方式として開始され、現在に至っています。1週間での主食回数はご飯4回、パン1回で、月に1から2回の麺給食を実施しています。学校で炊飯を行っているため、ふりかけご飯はもちろん、炊き込みご飯や混ぜ込みご飯等も実施しています。また、パン給食ではピザトースト、フレンチトースト等を実施しています。調理員の協力もあり、グラタン、ミートローフ、オムレツ等の手作り給食もできるだけ実施しています。

給食時間は毎日、各教室での給食配膳の様子を見たり、食べ方の指導などを行っています。給食の一口メモは、各教室で読んでもらっています。3年生はランチルームで食べるので、一斉に指導ができます。各教室に毎日顔を出していると、生徒も気兼ねなく、給食で食べたいものやこれがおいしかった等、話しかけてくれます。

食育は授業ばかりでなく、日々の声かけも大事

矢吹町立矢吹中学校 栄養教諭 近内千由里

な食育の一つだと思っています。昔、上司に「給食はいくら栄養があるからと言っても、食べてくれないければ何もならない。」と言われたことを思い出しながら、日々の献立を考えています。そして生徒たちの美味しかったという言葉と笑顔がいつも見られるような献立作りを心がけています。

授業としては、食育指導年間計画に沿って全てのクラスで実施しています。他の教科と比べると時数は非常に少ないですが、生徒たちが知識として実生活に役立ってもらえれば、という気持ちで実施しています。

これからも学校給食を中心に生徒たちの笑顔を求めながら、正しい知識をもとに生徒たちの健康のためにも、おいしく、安全、安心な給食を実施していきたいと思っています。



## (公財) 福島県学校給食会の栄養士として

公益財団法人 福島県学校給食会 主任栄養技師 川本輝子

日ごろより皆様には、ご理解とご協力をいただきまして感謝申し上げます。

給食会での私の仕事は今までの学校栄養職員の仕事とは異なり、事務的な処理や研修会、研究会の設定・準備・研究報告書のまとめ、貸出教材等の購入・管理、食材の試作調理、食育指導などで、需要と供給の立場が逆になりました。

まず、仕事の仕組みを覚え進めて行かなければという中で、供給の立場である給食会の対外的な注文に対する協力体制には驚きました。先生方にはご迷惑をおかけすることもあり、100%の満足感をもっていただくことは難しいと思いますが、お客様には精一杯対応させていただくという姿勢で進めており、その対応には気が引き締まったことを思い出します。その中で、給食現場では何を求めているのかということ職員の方々に伝えさせていただいております。

また、毎年本会で開催する調理員の方々への衛生講習会、栄養教諭・学校栄養職員の方々への衛生技術講習会、栄養教諭・学校栄養職員研修会、食育に関する調査研究会等、研修の場が少なくな

っている中で、続けてほしいという感想が数多くあります。本会ではそのような声を尊重させていただき、研修に対する平等性、世の中の流れに沿った研修内容の充実などを考慮しながら進めているところです。以前に比べ、学校給食は大きく変化しており、生きた教材としてのおいしい献立作成、調理、衛生管理、学校給食を活用した食育指導などが増え、また、日々の作成書類も多くなり、皆様には、毎日お忙しい日々を過ごされていることと思います。そのような中でも、自主的に勉強会を設け、自己の向上に努めている先生方のなんと多いことか。ある講師の先生が話されておりました。「栄養士の方々の学ぶことへの熱心さにはびっくりします。」と！それぞれの考え方は異なっても相手を認め、手を差し伸べお互いに協力し、向上していく姿は素晴らしいと思います。

学校給食は、体はもちろん、子どもたちの心や、家庭の食生活にも大きな影響を与えることを考えるとき、本会でも「学校給食会の5つの柱」を基本として、ご協力させていただきたいと思っています。今後ともよろしく願い申し上げます。



## 「健康で豊かな人間性の育みの柱として」

福島県立視覚支援学校 主任栄養技師 **野内容子**

本校は小学部から高等部・専攻科を設置する視覚に障がいのある方が学ぶ県内唯一の支援学校です。さらに、聴覚に障がいのある児童が学ぶ聴覚支援学校福島校も隣接し、3歳から中途視覚障がい等50代の方まで約60食を提供しています。

寄宿舎食堂において11:50から約1時間、摂食指導やカリキュラムに応じ、時差を設けてそれぞれのグループが一堂に会し、ゆっくり食事を楽しむことができます。昼食時は、舎食用から給食用に椅子の配置換えから始まります。発達段階や体格に合わせ、6種の椅子・足置き台等により食環境を整え、さらに重複障がい生には介助食器や食器具を個別にテーブルセットします。校内はもとより、食堂内も配膳台・下膳台の位置など点字ブロックが導き、声がけにより盛り渡し配膳とカフェテリア（セルフ）を行っています。感染症予防など体調により食堂以外で食する場合には、弁当給食も行っています。食堂内には、点字の「月のめあて」や献立表も掲示され、給食よりも点字版を発行しています。

現在の食形態は常食・刻み食で、服薬に影響の

ある食材やアレルギー食にも対応しています。学年や校種別に給食費単価は異なり、小柄な場合は体格に合わせた提供量に添って給食費を徴収しています。

献立内容は、毎月献立検討会が開催され、和食を中心として月に5～6回の行事食等を実施しています。旬や地場産物、減塩も意識し、旨味成分や香味野菜、各種スパイス等を大切にしています。特に、味噌汁には5mmカットの昆布や生姜等を入れ、舌触りや香りが感じられるよう努めています。少し大人向けの献立傾向ではありますが、幼稚部生を始め噛むことを意識しながら、残食もほとんどありません。今後も、美味しく楽しい時間となるよう、献立内容も充実させ、健康で豊かな人間性の育みの柱となるよう努力したいと思います。



## 第32回北海道・東北地区 小学校家庭科研究大会福島大会に参加して

福島市立吉井田小学校 栄養教諭 **渡部 ちか子**

平成29年10月20日に福島市の福島大学附属小学校・福島市立福島第二小学校を会場に本大会が行われました。

今年度4月より福島地区小教研家庭科部会に栄養教諭が所属したことから本大会の運営に携わることになりました。4月の小教研春季研究協議会の時には、既にこの大会の仕上げに入っている段階で、状況がわからずただ話を聞いているだけで精一杯でした。当日は、雨天で肌寒い日でしたが、県内各地からたくさんの会員の皆様にお越しいただき、本当にありがとうございました。

福島大会では、公開授業は4つあり、その中の2つが食育と関連する授業で、(B)日常の食事と調理の基礎「めざせ！みんなのみんなの栄養士」、特別活動（学級活動）「家庭科につながる食に関する指導」が行われました。福島大会では、「食育分科会」が設けられました。これは、今井会長が家庭科と栄養教諭・学校栄養職員をつなぐ機会にしてほしいというメッセージが込められた分科会でもありました。また、公開授業の「めざせ！みんなのみんなの栄養士」という題材名も私たち

への家庭科の先生方からのエールでもありました。2つの大きな想いがこめられた福島大会だったのです。大会に向けて、4月から幾度となく指導案の練り上げを行い、授業研究会に参加させていただきましたが、その都度熱い議論が交わされひとつの授業が作り出されていく過程をみることできとでも勉強になりました。当日の特別活動の授業では、かむことを意識させるための魅力的な手立てが児童の実感を伴う授業につながっていました。午後からの文部科学省筒井調査官の講演では、新学習指導要領について丁寧な説明があり、これからは、家庭科の目標や学習内容を踏まえた食に関する指導が実践できるように努めなければと思いました。係としての役割は十分にできず反省がばかりですが、それ以上に大きな新しい学びや視点を教えていただいた福島大会でした。



## 平成29年度 表彰

## 文部科学大臣表彰受賞

学校給食功労者 喜多方市立塩川小学校 栄養教諭 長 嶺 恵美子

## 学校給食優良団体・功労者表彰

優良団体 会津若松市門田地区学校給食センター

功 労 者	福島市南部学校給食センター	作業長兼技能主査	三 浦 昭 夫
	伊達市保原学校給食センター	統括調理員	大 橋 弘 子
	郡山市立小山田小学校	栄養教諭	橋 本 恵久子
	郡山市立大成小学校	主任栄養技師	武 田 真 弓
	白河市立白河第二小学校	栄養教諭	双 石 良 子
	喜多方市立塩川小学校	栄養教諭	長 嶺 恵美子
	柳津町学校給食センター	調理員	矢 部 郁 子
	いわき市立錦小学校	栄養教諭	新 妻 祐 美

## 福島県教育委員会教育長賞（県産食材活用部門）

国見町給食センター	三春町立三春中学校
鮫川村教育委員会	喜多方市熱塩加納学校給食共同調理場
只見町教育委員会	新地町教育委員会

## 平成30年度 行事予定

- 学校給食施設訪問実施状況点検  
5～12月 各施設
- 新規採用学校栄養職員研修「宿泊研修A」  
5月22日(火)～24日(木) 磐梯青少年交流の家
- 第13回食育推進全国大会  
6月23日(土)～24日(日) 大分県大分市
- 学校栄養職員経験者研修Ⅱ  
7月25日(水)～27日(金) 福島県教育センター
- 第59回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会  
8月2日(木)～3日(金) 広島県広島市
- 学校給食研究会栄養士部会  
8月8日(水) 郡山ユラックス熱海
- 栄養教諭等衛生講習会  
第1回目 9月13日(木)  
第2回目 9月14日(金) } 福島県学校給食会
- 新規栄養職員研修会「宿泊研修B」  
9月26日(水)～28日(金) 福島県教育センター

- 栄養教諭・学校栄養職員研修会  
第1回目 10月25日(木)  
第2回目 10月26日(金) } 福島県学校給食会

- 第69回全国学校給食研究協議会  
11月29日(木)～30日(金) 兵庫県神戸市

福島県学校給食研究会栄養士部会  
ホームページ

<http://www.f-eiyou.jp>

皆様のご意見やアイデア等  
お待ちしております。

## …編集後記…

会報発行にあたり、お忙しい中原稿をお寄せいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。  
いま私たちの求められているのは、「食に関する指導」と「学校給食の管理」を一体のものとして行うことです。子どもたちが生涯にわたって健康な生活を送り、健全な食習慣が身につけられるよう、日々取り組みましょう。